平成２７年度　第３回今金町まち・ひと・しごと創生有識者会議

議事要旨

日　　時：平成２７年8月２５日(火)　午後６時３０分～８時１５分
場　　所：役場２階　議員控室
出席委員：別紙名簿のとおり　９名
町・事務局: まちづくり総合戦略室　山田室長、早坂主幹、廣嶋係長
株式会社　ぎょうせい　北海道支社　松山主査

１．小川委員長あいさつ

前回会議で委員の皆様から提案いただいたアイディアと職員アイディアを事務局でまとめていただいた。この資料を基に今回は、絞り込みをして今金の特色ある取組を重点施策として総合戦略に盛り込んでいきたい。

前回、提案漏れがあったアイディアがあれば発言いただきたい。

２．協議事項

資料説明　山田室長より説明

資料①は、委員からの提案アイディア及び町職員のアイディアを４つの区分に分類したもの

３．意見交換　小川委員長　進行

資料①以外で委員の皆様から提案アイディアがありましたらご発言願います。

佐藤委員：医療体制の充実が必要！
八雲や函館の病院を結ぶ定期便を運行するなど

大谷委員：住みやすさを重視するのか？
将来に向かって過疎化を防ぎ、活力を見出す手立てだてを考えるのか？
提案した中から具体的な施策を絞る必要があるのでは？

川崎委員：道の駅構想について
設置要件として駐車場があって、トイレがあって、観光の拠点があって、物産販売所があれば道の駅として機能できる。そのように考えるとすでに、デモーレン周辺で
新しいものを建てなくても、既存施設をうまく活用して道の駅をできるのではないのかと考えます。
お客様の利便性を考えることも大切ですが、農産物を提供する農家さんを考えると、道の駅の場所は、神丘ではなく、町の中心部の方がいいのでは？そうすることによって農家さんも直売所に農産物を提供しやすい。そのような工夫がないと町の結集した道の駅にはならないのでは？

山田室長：道の駅の構想的は大切なご意見です。町としても手を拱いるものではなくて、現在やっ

ているラジオ宣伝 PR などの事業ともリンクすると思いますし、今金町に実際町外から訪れた方々への、トイレや案内所だったり、物産直売所だったりが町としての課題だと行政でも思っておりますので、これらを総合戦略に盛り込むなどを検討中。
また、運営体制について受け皿が近々としての課題だと考えています。

西雪副委員長：前回の振興局生田戦略担当部長も話していましたが、国がどのような事業を採択するのか、まだ不透明であるのであれば、これまでの委員の提案を整理して事務局案を検討してはどうか？

山田室長：現在のところ、国の総合戦略交付金がどのようなものが対象になるか不明確であります。
不明確だけに、今後交付金の制度が明確になった場合でも対応できるような総合戦略を作成することが必要と思います。
皆様からいただいたアイディア等は、無駄にすることなく総合戦略に盛り込むもの、町の総合計画に搭載し、実施していくものなど整理していきたいと考えています。

小川委員長：前回までの皆様のアイディアは、40 項目ありその中から絞り込みが必要と思っている。
地方創生担当の石破大臣のコメントでも、コンサル会社に丸投げした総合戦略は、すぐにわかる。地元の意見を地方創生の総合戦略に取り入れることが大前提であること。
その点を考え、今金町は福祉のまちであり、障がい者雇用、福祉の関係者が約 500 名で、今金町人口の大きな幹になっている。
商工会で進めている、障がい者雇用を核としたコミュニティビジネス創出事業も、
つながりが生まれ、企業誘致ということで TTN が植物工場をつくるための調査研究を進めている。
これらを総合的に捉え、総合戦略にキーワードとして『福祉と産業』を絞り込んでいけないかと考えている。
農作業は夏場に雇用の需要はあるが、冬場の働く場がないのが問題！
通年の雇用がないと障がい者雇用は難しい。
そこで、雇用のシェアできないか？現在商工会で検討を進めている。
例えば、通年栽培しているハウス園芸野菜や除雪など
福祉と産業をキーワードにすると・・・
■福祉に関する学校の誘致や現場実習、職業訓練校の誘致なども考えることができる。
■障がい者雇用の大きな問題は、仕事がなかなか定着できないこと。これらの問題解決のため、生活支援のサポートのワンクッションが必要であり、これらの体制整備も図ることができる。

『福祉と産業』のマッチングをテーマに、それに付随するアイディアを絞り込んで総合戦略に重点施策を進めていきたい。

大谷委員：水耕栽培と新規就農等関連があるので、大場委員の意見を聞いては？
大場委員：水耕栽培は本来の農業と切り離して考えなければならない。

施設等も無菌状態でこれまでの農業と別と考える必要がある。農協としても一緒のものとして考えていない。ただ、流通等は、連携することが可能？
今後、連携等しながら協議を進めたい。

佐藤委員：これまでの意見を絞り込んで有識者会議としての意見を総合戦略に盛り込むとおさえたとき、『福祉と産業』はすごく特色があると感じている。
すでに、福祉と産業についてはネットワークや関連施設などベースがあるので総合戦略として重点施策として絞り込むのにいいと思う。

西雪副委員長：福祉に重点をおいてこれまでまちづくりをしてきた今金町としては、重点施策に『福祉と産業』として考えるのはいいと思う。

小川委員長：日本理化学工業と TTN とのかかわり、障がい者雇用についての説明がされた。
なぜ、TTN が今金町で水耕栽培をすることとなったかの経緯を説明。
これらと地方創生をマッチングできないか考えたい！
福祉（高齢者、障がい者）にやさしい町として全国に発信したい！
トータルで福祉と産業を捉えて総合戦略に盛り込みたい！

川崎委員：水耕栽培は、自動化しやすい分野。都市部近郊ですでに行われている大規模な水耕栽培は安全な野菜を安くて、販売しているので、今金町で実施する場合は、なんらかの差別化を考えていかないとだめだと思う。
小川委員長：今後、調査研究を進める上で参考とさせていただきたい。

安田委員：福祉のまち、障がい者とともに歩む町としてのイメージを今金町として持っていくことは、人を呼び込む、活性化にはいい方向性だと思いました。養護学校卒業生が働いていける環境を整備することは大切。地元の企業も町民もそれのことを理解して取り組むことは重要。水耕栽培工場にすべてお任せするのではなくて、地元の企業の受け入れや生活支援などどのようなことしなければいけないかを考えることが必要と感じた。

小川委員長：すでに養護学校生徒への実習の受け入れを農家さんや商工業等、地元に広く協力していただき実施している。
将来、雇用主となる方からも評価をいただいている。
実習期間を長くするなど、雇用側とのコミュニケーションを深める取り組みが必要だと感じている。

大場委員：養護学校卒業生の地元就職への希望が毎年 5～6 名あると聞いている。地元に間口がないので、函館や江差等へ就職している現状。
農協としては、雇用を考えた時に、組合員が軽量野菜で（ミニトマトなど）人手が足りない状況であり、就労をしてもらえることが今後考えられるのではと思う。
農協には共撰施設がないので、現在は、組合員が作物を栽培して、収穫し、各自で選別、梱包し製品にして農協に出荷している。

今後は、共撰施設の整備も視野に入れた時、組合員は作物を栽培、出荷し、選別や梱包など商品とする作業を養護学校卒業生の雇用の場としてできないか考えたい。
共撰施設を整備することによって、新たな雇用の場が生まれ、さらには、これまで製品化していた作業がなくなる分、組合員は生産を強化し収量を増やすことができるのでは？と考えている。

垣本委員：前回の会議で川崎さんの話された漢方栽培を検討してはどうかと感じた？
夏場は栽培し、冬場は乾燥したものを加工するなど通年の雇用が生まれるのでは？
農家嫁不足対策につながるのでは？農業のイメージを変える取り組みとなるのでは？

大場委員：2 年前に漢方の調査が今金町でもあった、実現は見送られた経過がある。
川崎委員：今金町で栽培可能な漢方の農薬がその時は開発されていなかったと聞いている。
西雪副委員長：豊浦町ですでに漢方薬の栽培がおこなわれている。

垣本委員：福祉のまちということで養護学校卒業生を雇用するのであれば、雇用する側も福祉のことを勉強してほしい。卒業生がなぜ、仕事が長続きしないのか？仕事が問題なのか、仕事以外が問題なのか？その子をどのくらい知っているかかが問題では？
福祉関連学校等ができたら、町民が福祉や障がい者について、学べる場になると思う。

小川委員長：今金町のいいところは、光の里があり、障がい者の生活支援に対し、きめ細かなサポートができることだと思います。様々なケースが考えられますが、それらをサポートできる機能が今金町にあると思います。

大場委員：障がい者雇用の相談窓口が、光の里が受託している『光（ひかり）』が機能している。光の里の相談員や養護学校教員と連携して取り組んでいる。素晴らしい体制だと思っている。

山田室長より
資料②は、基本目標別に施策を分類したもの　説明

基本目標別施策の構成として

　基本目標、平成 27 年度先行型事業、有識者からの提案、町の政策提案、既存事業（総合計画実施事業）となっています。

基本目標は、下記のとおり

基本目標１．今金町における安定した雇用を創出する

人口減少対策においては、地域の活力と持続可能性の基礎となる産業と雇用の創出は必要不可欠なものです。

本町の基幹産業である農業における「今金型地域複合経営」の促進、福祉分野での雇用の創出を図るとともに、民間での受け皿づくりにより女性、高齢者、障がい者の就業機会の拡大を目指します。

基本目標２．今金町へ新しいひとの流れをつくる

本町には美しい山林、一級河川後志利別川の豊かな水、肥沃な農地といったまちの財産があります。観光だけではなく、様々な農林業体験イベントの開催や交流も含めた誘客を図ることで、経済効果の創出と地域の活性化を目指すとともに、優れた自然環境と共生する持続可能なまちとして、定住の地として選ばれるよう移住・定住の促進策などを推進していきます。

基本目標３．若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

本町は国保病院、介護老人保健施設、認定こども園いまかね等医療・福祉・教育サービス機能が保たれています。今後は、救急医療・かかりつけ医療の確保、乳幼児などへの福祉サービスの提供体制の確保、幼児・初等・中等教育の確保を図り、子どもたちが健やかに成長できる地域を目指します。また、子育てをする家庭が仕事との両立を図ることができるよう、子育ての本来的な役割は家庭にあることを基本としながらも、地域が子どもを見守り、出産や育児にかかる家庭の負担を軽減し、若い世代が結婚から出産、子育てに希望を持てる地域の実現を目指します。

基本目標４．地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する。

本町は、交通事故、犯罪の発生や自然災害も少なく安全な環境のもと安心して住まえる地域です。また、協力意識と行動力のある人が数多く活躍して、まちづくりが保たれているまちです。今後は、救急時医療、福祉サービスの提供体制の確保、日常的な買い物機能の確保、生きがいづくりへの取組みを推進することで、そこに住み続けたいと思える生活・定住の環境づくりを進めていきます。

基本目標５．タウン・プロモーションにより今金町の魅力を多くのひとに知ってもらう。

地域再生、観光振興、住民協働などを推進し、本町のイメージを形成し高めるために、町の内外に向けて戦略的にタウン・プロモーションを推進していきます。地域の売り込みや自治体名の知名度の向上、自らの地域イメージを高め経営資源の獲得を目指すことは、本町のまちの宝に触れ、知ってもらう交流人口を増加させ、移住・定住者の獲得へつなげていきます。

基本目標別施策に対する有識者から意見

小川委員長：インパクトが強いものがいいのでは１から５項目はどこの町でも設定するのでは？
５項目に囚われず、今金町の総合戦略は『福祉と産業』を前面に出した目標を設定してはどうか？

山田室長：　国から求められている基本目標であり、これらの設定の中で、『福祉と産業』の重点施策を絞り込んでいきたい。それ以外の政策も行政内で検討し搭載していきたい。

大場委員：　総合戦略を国に提出して採択された後、有識者会議の役割は？
また、28 年度で採択されない場合は、また新たに審議して提出が必要なのか？

山田室長：　現在の所、総合戦略交付金の採択要件などが不透明ですが、重点施策やそれ以外の政策なども５年計画で申請する。平成 28 年度該当にならなかった政策事業も、平成 29 年に対象となる場合はある。
有識者会議の役割は、総合戦略の評価や達成度などを審議していただき、計画の見直しなどをお願いしたい。

小川委員長：次回会議が本格的に詰めなければならない会議になると思いますので、今回提案があった資料の中から『福祉と産業』に関わる重点政策を絞り込んで次回までに考えていただきたい。

山田室長：９月と 10 月でまとまらない場合は、もう一回開催することも考えている。
次回の 4 回目はこれまでのご意見を踏まえ、今金町総合戦略の素案を提示し、ご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いしたい。

次回第４回の会議日程は９月 11 日に実施したい。

全委員了承　以上